北区のお宝マップ 第4版

松浜地区拡大図

1. ひょうたん池

松浜の海岸砂丘地に、「く」の字型をした細長い池があります。

いつからあったのか、はっきりしませんが、昔は浅くて丸い池だったので「輪湖(わこ)」とも呼ばれていました。

1934(昭和9)年発行の地形図には「ひょうたん形」の池が記載されています。

池にはフナやライギョが生息し、ヒシなどの水生植物も見られます。砂丘地には海浜植物が生え、チョウトンボをはじめ20種類以上のトンボが飛び交います。

絶滅危惧種のオオモノサシトンボやオオセスジイトトンボも生息しています。

2. 松浜二・七の市

1876(明治9)年、松浜の平田甚六と井村吉太郎が、県へ2と7のつく日に市を開きたいと願い出ました。ほどなく許可を受け、それ以来、松浜では2と7のつく日に市が開かれています。市が開かれる松浜本町4丁目は「新屋敷」とも呼ばれ、1873~74(明治6~7)年にかけて阿賀野川の川岸の浅洲を埋め立てて造成されたところです。

松浜二・七の市は、1916(大正5)年の県統計書によると、2·7·12日には新屋敷で、17·22·27日には本町通りで開かれていました。1959(昭和34)年に新屋敷に統一されて、現在は約100店が出店しています。

3. あかしあ公園・桜ヶ丘こども広場

東区側から松浜橋(長さ920m)を渡ると、左側に小高い丘があります。ここには、かつて港の灯台がありました。しかし、航空路の支障となるので、灯台を松浜漁港内に移設し、その後、ここは北極星スコープがある公園となりました。

東屋からは、日本海、新潟空港、松浜橋、阿賀野川、弥彦山、角田山などが一望できます。特に、間近を飛ぶ飛行機や佐渡島へ沈む美しい夕日はオススメです!

4. 海辺の森

南浜地区の日本海に面した松林の中にあり、展望塔、ハマナス園、キャンプ場などがあります。トリムコース、わんぱくの森には、子どもたちが自由に遊べる遊具がそろっています。キャンプ場には、テントサイトが32ヵ所、炊事棟が4棟あり、キャンプの必需品であるテント·鍋や飯ごうなども準備(有料)されています。雨天時の団体活動のための「つどい棟」には、「つどいのホール」や談話室が備えられており、管理棟にはシャワー室、多機能トイレもあります。

近くの島見浜海水浴場では、7~8月の日曜·祝日の早朝、キャンプ場宿泊者が地引網を体験できます(要確認)。

【申し込み】海辺の森キャンプ場　電話025-255-3810
【開設期間】4月29日~10月31日

5. 西厳寺と切尾山神社

西厳寺

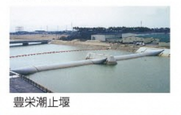
上越市顕城区にあった栖吉山城の城主 手島景行は、1579(天正7)年、上杉謙信没後に起こった御館の乱で敗れ、島見浜に逃れたといわれています。

景行は、その後栄玄と名を改め、西厳寺の開祖となりました。1590(天正18)年、京都の本願寺から「西厳寺」の寺号を賜り、以来1000軒以上の檀家を持つ名刹となっています。

切尾山神社(浦ノ入)には「宝物であった親鸞真筆の「南無阿弥陀仏」の巻物を泥棒が盗み、岩船の蒲萄峠に捨てていったが、夢の知らせにより訪れた栄玄が拾ってきて寺の宝物にした」という話が伝わっています。その巻物は、西厳寺で大切に保管されています。

6. 福島潟放水路

放水路管理所



豊栄潮止堰

悠久橋

1966·67(昭和41·42)年の大水害をきっかけに放水路建設が計画されました。計画から35年、2003(平成15)年3月16日に完成しました。長さは6.7kmです。福島潟の水位が高くなったとき、その水を直接日本海へ流し、北区や潟周辺の水害を防ぎます。初稼働は2004(平成16)年7月13日です。放水路には20の橋がかかり、豊栄潮止堰と悠堰の2つの堰があります。また、途中には新発田川と交差する川の十字路があります。

7. 内島見観音堂・仁王堂(国登録有形文化財)

内島見観音堂

蒲原33観音霊場の第28番札所で、昔から観世音菩薩の霊域として近在の人々から厚く信仰されています。聖観音菩薩像は弘法大師の作で、新発田の豪族 岩村忠左衛門成郷が寄進したと伝わっています。現在の観音堂の堂宇は、1865(元治2)年に再建されたもので、細かな補修はあるものの、建築当初の姿をとどめています。また、仁王堂は山門形式の堂宇です。新発田市の二王子神社より1872(明治5)年に譲り受けた仁王像を安置するため、1901(明治34)年に建立し、こちらも建築当初の姿をとどめています。

8. 木崎村小作争議記念碑

木崎村小作争議は、1922~1930(大正11~昭和5)年に起こった、全国的にも有名な争議です。これは、木崎村で小作人による組合が結成されて、地主に小作料減免などを要求した運動です。さまざまな事件があったなかでも、1926(大正15)年、小作人の子どもが通うための学校(無産農民学校)が組合員によって建設されたことが大きな出来事です。

1972(昭和47)年、木崎村小作争議50周年記念碑が無産農民学校の西入口があった場所に建立されました。

新潟市北区郷土博物館には、この争議に関する資料を展示しています。

9. 中大川土居跡

葛塚地域を水害から守るため造られた堤防の跡です。葛塚全体を囲いこんだこの堤防は、庄屋の遠藤七郎左衛門宗寿の指揮のもと村人総出で造りあげたといわれ、1788(天明8)年の絵図にも描かれています。村人が力を合わせて、この堤防を補強し続けたため、1857(安政4)年の加治川決壊による水害も防ぐことができたと伝えられています。

新井郷川排水機場の稼働で水害の危険が少なくなったことなどにより、堤防は取り壊され、正尺に一部残っているだけですが、水と闘いながら生活した地域の歴史を伝えています。

10. 水死亡霊塔

この塔の建つ道路は、かつて福島潟と黒山潟をわけていた堤でした。江戸時代、福島潟の新田開発のために造られたもので、堤ができる前は、福島潟は1つの大きな潟でした。そのころ、対岸への往来や漁などのために潟端に住む人々は小舟で潟を行き来していましたが、突風が吹くと舟が転覆して水死する人もいたそうです。

この塔は福島潟で水死した人々の供養と水上安全を祈り、1843(天保14)年に龍雲寺の僧によって建てられました。

11. 松浜まつり·阿賀野川ござれや花火

松浜まつりは、毎年8月24日~25日に行われます。24日は、松浜太鼓と松浜中学校マーチングバンドの行進を先頭に、16町内が参加する手作り山車パレードが見もの!観客の大きな拍手でわきます。

北区の夏の風物詩「阿賀野川ござれや花火」は、25日に開催されます。名物の2尺玉や水中花火のほか、2007年からは政令指定都市誕生を記念した「花鳥風月」、2008年からは「希望」という名の大スターマインが毎年、夜空を彩っています。また、花火実行委員会による企画花火も見どころの1つです。

12. 太古山日長堂(国登録有形文化財)

かつては、新崎開拓7軒衆で名主の古山家の邸宅でした。木造平屋建ての主屋「日長堂」は宝暦年間(1751~64)の建築といわれています。主屋から続く仏蔵「開山堂」は、19世紀に建てられたもので豪農の仏堂の形を伝えています。邸内には、太古山、千歳園、瑞雲台と呼ばれる名所のほか、1878(明治11)年の明治天皇の北陸巡幸で休憩所となったことにちなんだ碑や、江戸期の文人の碑などが多くあります。(非公開)

13. 法淳寺(市指定有形文化財)

水害で村人は四散したものの、村に本尊仏が残っていたので村人が戻り、1676(延宝4)年に今の堂宇を建立したと伝えられる寺院です。浄土真宗の本堂としては、新潟県内で最も古い時期の建物です。堂内は1間(1.8m)ごとに角柱が立ち、平縁天井で高さも低く、古い形です。

340年以上の歳月を経た現在でも、屋根の改造や増改築があるものの、ほとんど建立当初の姿が残されています。

建造物では、北区唯一の新潟市指定有形文化財です。

14. 松潟の大地蔵

松潟の鉄相寺の門前にあり、身替わり地蔵、汗かき地蔵とも呼ばれています。「地蔵様が汗をかくときは何か事故が起きる」といわれ、1964(昭和39)年の新潟地震の前にも汗をかいていたのが確認されています。

この地蔵様の台座の下からは、1988(昭和63)年の御堂改築時に何百もの写経石が出土しました。1843(天保14)年の銘のある写経石もあります。

15. 新江用水と竣工記念碑

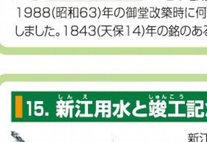
新江用水は、北区の岡方·長浦地区や阿賀野市など約2300haの水田を潤す農業用水です。現在は阿賀野市(安田)小松の阿賀野川頭首工より取水しています。1734(享保19)年の開削以来、約290年も人々の生活を支え続けています。

長い歴史のなかで、水路の工事はたびたび行われていますが、1965(昭和40)年の大改修工事完了の際には、岡方第一小学校前に竣工記念碑が建てられました。

16. 十二潟

古阿賀とも呼ばれ、阿賀野川の乱流蛇行によってできた三日月湖です。広さは約6haで上池、中池、下池に分かれています。昔は潟の幅が約87mもあったといわれ、対岸まで張った縄をたぐりながら舟で往来し、ヒシ採りやフナ釣りも行われていました。現在、広さは半減していますが、ヒシのほか希少なアサザ、ガガブタなど水生植物も群生しています。貴重な十二潟の自然を守る取り組みも続けられています。

17. 内沼神社と内沼潟



江戸時代の中頃、福島潟は内沼周辺まで広がっていて、ここが福島潟開発の最前線だったと考えられています。社殿に納められている1736(元文元)年の石柱(縦13cm×横21cm×高さ90cm)には、「近江(滋賀県)から新発田に移住した沢村太兵衛の孫の六郎兵衛が1730(享保15)年にこの地を購入し、今は田畑を開発している」と刻まれています。越後平野最大の潟「福島潟」の開発を示す市内最古の資料として、石柱は新潟市指定有形文化財になっています。近くにある内沼潟は、かつては福島潟の一部で、潟開発の歴史を伝える貴重な水辺です。

18. 高森の丘

阿賀野川右岸にあって、標高17.6mの独立したこの丘は、地域のシンボルです。

撮影　橋本建男 氏

■ 高森の大ケヤキ(県指定天然記念物)

稲荷神社の横にあるケヤキは、推定樹齢1200年で、県内のケヤキの中では2番目に大きいケヤキです。根回り12.4m、目通りのまわり10m、高さ20mで王者の風格です。北区では唯一の県指定天然記念物です。老樹のため幹や枝が空洞化して折れやすくなっており、地域のシンボルとしての大ケヤキを守る養生工事がくり返し行われています。

■ 稲荷神社

717(養老元)年の創建と伝えられ、現在の社殿は1860(万延元)年に建立されたものであると伝わっています。社殿の隣にある舞殿では、祭礼のときに高森の神楽が奉納されます。

■ 高森薬師堂

越後の名薬師といわれる薬師如来がまつられています。さまざまな説がありますが、持統天皇の時代に唐の高僧が暴風雨にあってこの地に漂着し、持っていた薬師如来を安置したのが始まりで、奈良時代から平安時代にかけて、一帯は大小36の寺坊があり3000人の僧が生活するほどに、繁栄していたといわれています。幾度かの盛衰を繰り返しましたが、1704(宝永元)年に京都の仏師 辰巳蔵之助に製作を依頼した薬師如来を、翌1705(宝永2)年にお堂に納めて再興しました。

1974(昭和49)年、前年に火災で焼失した薬師堂が再建され、新しい薬師如来もお堂に納められました。高森集落をはじめ、近郷近在の多くの人々からの信仰を集め、現在に至っています。

■ 薬師山の碑

「薬師山」とは、岡方地区のアマチュア相撲で代々受け継がれた四股名です。相撲は、地域の若者たちの力試しと娯楽として始まり、まつりでは奉納相撲が行われていました。優秀な選手には岡方の地名をとった四股名が受け継がれました。

この碑は、3代薬師山として20年連続で国体に出場した野村敏雄氏が奉納した歴代薬師山の顕彰碑です。

19. 葛塚石動神社(国登録有形文化財)

神社の建つ丘は、「葛塚」の名の発祥地です。かつて葛や藤が生い茂り、人々が葛塚と呼んでいたため、村の名前になったと伝えられています。

神社の創立は、1715(正徳5)年と伝わり、社殿には1732(享保17)年の棟札が残っています。境内には「加賀(石川県)から新発田へ移ってきた溝口家の家老が新たに開墾をするにあたり、本国の邸内にまつっていた石動大神をこの地にまつった」と刻まれた碑もあります。葛塚の歴史とともに歩んできた神社で、現在の社殿は1796(寛政8)年に建てられたものです。

20. 葛塚古峯神社(国登録有形文化財)

1878(明治11)年に発見された木像をまつったのが始まりで、火難除けの神として信仰されています。ほとんどがケヤキで造られた社殿は、いたるところに装飾的な彫刻があります。木材に「天保八酉年」の墨書があり、社殿はそのころに造られたと思われます。

立派な彫刻を保護するため、社殿には覆屋が造られました。普段は覆屋越しに見ることしかできませんが、毎年6月16日の祭礼では覆屋の戸が開かれます。

21. 葛塚稲荷神社(国登録有形文化財)と葛塚まつり

1733(享保18)年ごろ、ここに小さな祠が置かれ、1750(寛延3)年に神社が建てられ、村の守り神となったと考えられています。現在の社殿は、1815(文化12)年に建てられたもので、当時の様式を残す神社です。

葛塚地区の代表的な祭神社で、毎年9月の葛塚まつりのときは夜店が連なり、多くの人が集まります。境内では「他門の神楽」の入れ舞い、近くでは灯ろうの押し合いも行われ、おおいににぎわいます。

22. 葛塚市と開市神社(国登録有形文化財)

葛塚市は、1761(宝暦11)年、幕府の許可により開設されて以来、約260年の長い歴史を持つ市場です。現在も1·5·10·15·20·25日に100店近くが出店しています。

市場を開くために尽力したのが、葛塚の庄屋遠藤七郎左衛門宗寿です。市場を開き、用水の確保に力を尽くし葛塚の発展に大きな役割を果たした宗寿を、1863(文久3)年にまつったのが開市神社のはじまりです。

開市神社には村政に尽くした七郎左衛門国忠、幕末に北辰隊隊長として活躍した七郎昭忠もまつられていて、遠藤家の3人が祭神となっています。

■初版 2008(平成20)年3月　■第4版 2021(令和3)年2月　●発行·著作:新潟市(担当　北区郷土博物館 TEL025-386-1081 新潟市北区嘉山3452番地)　●協力:北宝隊　●印刷:㈲アサヒ印刷クリエイティブ

*この北区のお宝マップ第4版は、観光誘客に使用するため新潟市北区観光誘客推進協議会が増刷した。